

ダイジェスト版

# 複式簿記から 公認会計士の世界へ

岩手県立盛岡商業高等学校

2017年3月14日

公認会計士・監査審査会 会長  
一橋大学名誉教授

廣本 敏郎

---

会計なくして経済なし

# I. 公認会計士とは “監査”及び“会計”の専門家

**公認会計士の使命** >>> 公認会計士は、国家試験である公認会計士試験に合格した者だけに与えられる資格であり、公認会計士法にその使命等が規定されています。

**《公認会計士法》**  
公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

**会計なくして経済なし** >>> 公認会計士は、グローバル化が急速に進む日本経済の健全な発展のために、監査人、コンサルタント、組織内会計士など、経済社会の様々な局面で、きわめて重要な役割を果たすべく幅広く活躍しています。

## MISSION

**ミッション**  
資本市場の番人として、企業等の財務情報の信頼性を確保し、投資家等を保護しています。

- 企業が作成する決算書の検証

## PROFESSIONAL

**プロフェッショナル**  
監査・会計の専門家として、高度な専門知識を活かし、多様なニーズに応じて専門的な視点から助言・指導を行っています。

- 株式公開支援 ● M&A ● 組織再編

※このほか、税理士として登録を行うことにより、税務業務を行うことができます。

## GLOBAL

**グローバル**  
金融・資本市場のグローバル化、企業の海外展開等に伴い、活動のフィールドは世界に広がっています。

- グローバル経営戦略の策定
- 海外子会社を含むグループ決算

# CPA

## 公認会計士

Certified Public Accountant

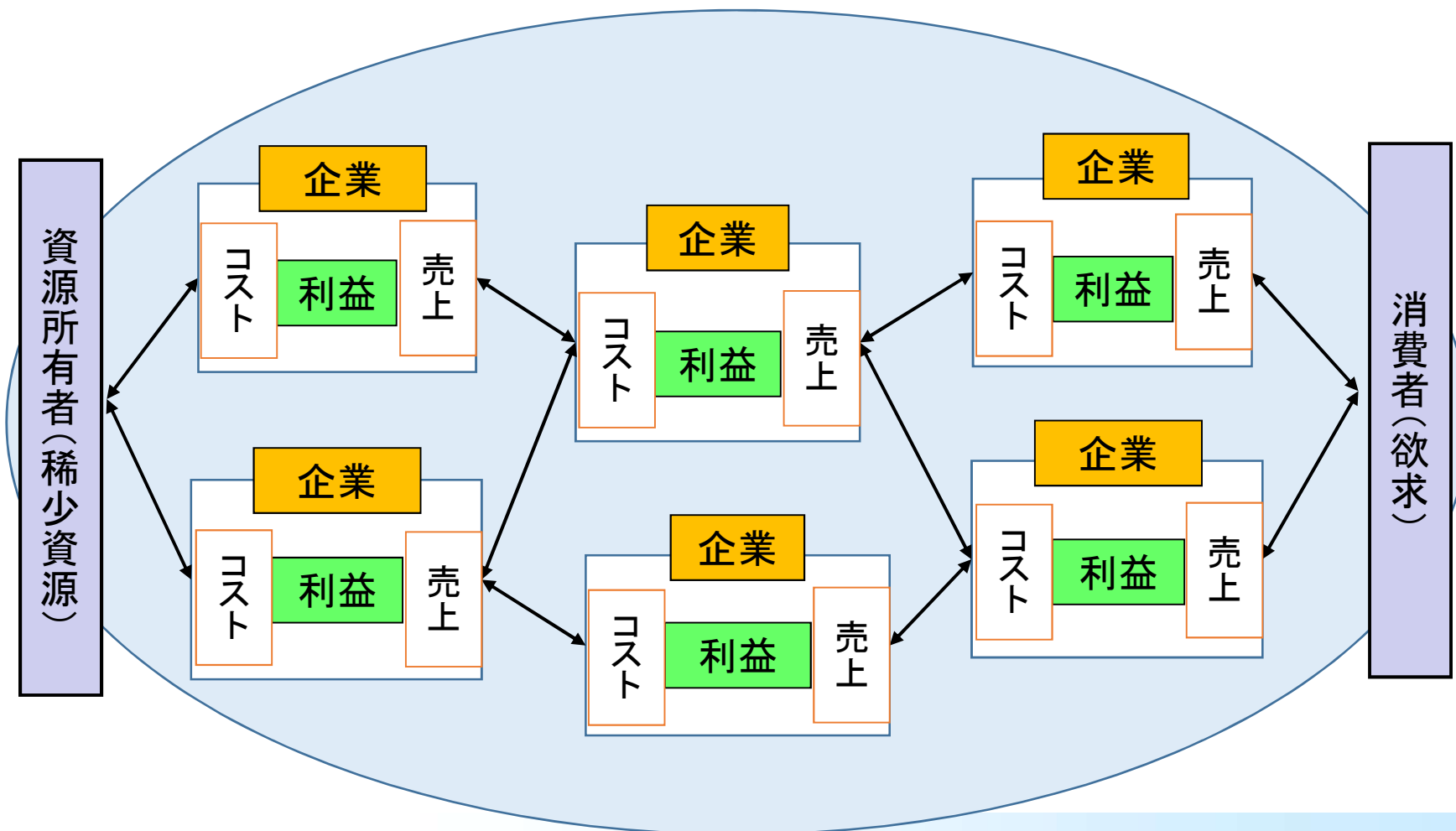
**受験願書のインターネット受付が始まります**

平成29年公認会計士試験第1回短答式試験からスタートするインターネット受付では、自宅のパソコンなどで、出願手続きを行うことが可能となり、郵送での手続きは不要となります。また、受験手数料の支払いについても、ネットバンキングやATMで行うことが可能となります。(従来どおり、収入印紙を貼付した受験願書の郵送による出願も可能です。)

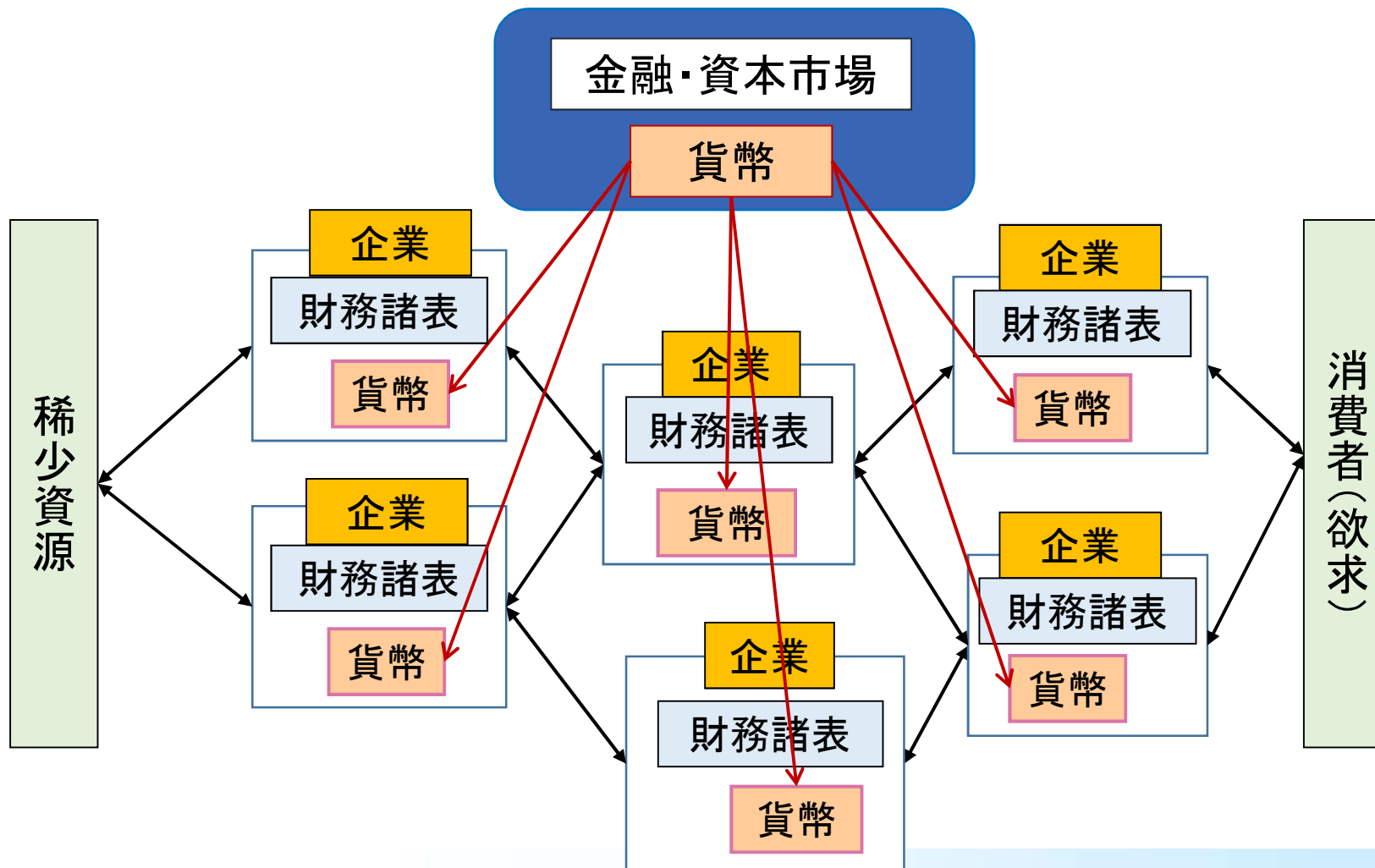
手続きの詳細については、今後、公認会計士・監査審査会ウェブサイトでご公表していく予定ですのでご確認ください。

# 市場経済のインフラとしての複式簿記

～市場参加者の行動原理「売上最大、コスト最小」～



# 金融・資本市場における財務情報の重要性



# 利益を測る会計技術の誕生

- 利益を測る会計技術としての「複式簿記」
  - いつ誕生？ ⇒ 遅くとも1400年代に
  - どこで誕生？ ⇒ 北イタリアで
  - 誰が？ ⇒ 地中海貿易に従事した商人たちが  
複式簿記を生み出した！

## 歴史上の証拠

数学者ルカ・パチョーリ(1445-1517)がベネチアで1494年に出版した数学の教科書の一部で利益測定技術(複式簿記)を解説

(桜井久勝教授の夢ナビライブ2012講義より)

# 現代経営の中枢を成す会計

～稲盛和夫『実学—経営と会計』より～

---

- 日本経済は成熟化し、成長神話は崩れ去り、複雑なグローバル経済の中に組み込まれている。このような時代においては、経営者は、自社の経営の実態を正確に把握した上で、的確な経営判断を下さなくてはならない。そのためには、会計原則、会計処理にも精通していることが前提となる。
  - ところが日本では、それほど重要な会計というものが、経営者から軽視されている。会計と言えば、事業をしていく過程で発生した金やモノにまつわる伝票処理を行い集計をする、後追いの仕事でしかないと考えている。 (続く)



## 現代経営の中枢を成す会計（続）

---

- 経営者にとって必要なのは、結果として「いくら利益が出たか」であり、会計の処理方法は専門家が分かっているだけでよいと思われ、更に、会計の数字は自分の都合の良いように操作できる、と考えている経営者さえいる。
  - 私は京セラを創業、ゼロから経営を学んでいく過程で、会計は「現代経営の中枢」を成すものであると考えるようになった。企業を長期的に発展させるためには、企業活動の実態が正確に把握されなければならないことに気づいたのである。（稲盛和夫『実学』日本経済新聞社、1998年、2-3頁）



---

# 市場経済とモラル

## アダム・スミスが描いた市場経済

---

- 経済の世界は、「自分自身の境遇を改善せんとする欲望」によって導かれている世界である…利己心というものが経済という世界の原動力である…
- (しかし) スミスによると、この利己心というものは、めいめいが何でも勝手放題なことをしてよろしいというのではなく、そこに一つの社会性がなければならないということになっている。社会的な枠のない、無軌道な、勝手気ままな欲望の追求というものは、人間の行為でもなければモラルでもない。

(高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、76頁)

# 盛岡商業の校是

---

- 大正2（1913）年2月 盛岡市立商業学校創立  
（平成25年 創立100周年）

## 校是 士魂商才

校訓 至誠、協同、自立

渋沢栄一『論語と算盤』より

昔、菅原道真は「和魂漢才」（日本独自の精神と中国の学問を併せ持つ）と言ったが、私は、常に「士魂商才」（武士の精神と商人の才覚を併せ持つ）ということを提唱している。（15頁）

# わが国資本主義経済の原点

## ～渋沢栄一の理念～

---

- 「日本の資本主義の父」と称される渋沢栄一は、利潤追求をめざす経済行為の中にも道徳が必要なことを悟っていました。
  - 私が常に希望しているのは、「物事を進展させたい」「モノの豊かさを実現したい」という欲望を、まず人は心に抱き続ける一方で、その欲望を実践に移していくために、道理を持って欲しいということである。その道理とは、社会の基本的な道徳をバランスよく推し進めていくことに外ならない。

(渋沢栄一 (守屋淳訳) 『現代語訳 論語と算盤』  
ちくま新書、2010年、89頁)

## 松下幸之助氏の経営哲学

---

- 利益というものは、健全な事業活動を行っていく上で欠かすことのできない、大切なものである。
  - しかし、それ自体が究極の目的かというと、そうではない。
- 根本は、その事業を通じて共同生活の向上を図る、というところにある。

(続く)

## 松下幸之助氏の経営哲学（続）

---

- ・ その根本の使命をよりよく遂行していく上で、利益というものが大切になってくるのであり、そののところを取り違えてはならない。
  - そういう意味において、事業経営というものは、本質的には私の事ではなく、公事であり、企業は社会の公器なのである。

（松下幸之助 『実践経営哲学』 PHP研究所、  
1978年、26頁）

## 松下経営における経理の独立性

---

- “経理の乱れは経営の乱れにつながる” という考え方は一貫して変わっていない。
  - だから、松下電器では「経理社員」の規定を設け、もし事業部長が経理規定に反するようなことを要求した場合は、事業部長に対してその誤りを改めてもらうよう建言する責任を経理社員に与えている。
  - うるさい部下だ、気に入らない、ということでは事業部長が勝手に異動させたりするのは困る。(続く)



## 経理の独立性（続）

---

- そういうことが起こらないために、経理社員に対する人事権は本社の経理本部長がもつようにしてある。
  - ・ したがって経理社員は、上司といえども安心して是非をはっきり言える立場にあるのである。

（高橋荒太郎『語り継ぐ松下経営：  
名補佐役が語る若き人たちへの遺言』  
PHP研究所、2008年、215-216頁）

---

# 公認会計士に対する社会の期待

## 日本公認会計士協会HPより

---

- 1949年に東京、大阪、名古屋をはじめとする8箇所証券取引所が開設、1951年、証券取引法に基づく公認会計士監査が開始された。
  - － 以後、証券市場の拡大とともに公認会計士監査の重要度は増し、公認会計士法の改正が加えられてきた。1966年には、企業の事業活動の大規模化に対応する組織的な監査を行うため、監査法人が誕生。1967年には学校法人監査、1974年には商法に基づく公認会計士監査導入など公認会計士への要請は証券市場だけでなく社会全般に拡大されていった。

## 金融行政方針 平成28年10月 金融庁

---

- 監査業務を担う公認会計士という職業に関心を持つ者の拡大を図るため、会計監査や公認会計士資格に関し、高校生等若年層や女性に向けた広報活動を、日本公認会計士協会等と連携して推進する。(15頁)
- 金融庁・日本公認会計士協会 作成パンフレット  
公認会計士・試験合格者の活躍フィールド (2016年8月)
  - 公認会計士は、監査法人で勤務するだけではありません。監査業界に限らず、社会のさまざまな場面で会計専門家の知識・経験・判断力が必要とされています。

# 公認会計士・ 試験合格者の 活躍フィールド

## 社会から信頼される公認会計士

- 公認会計士の活躍領域は、今日ますます経済社会のさまざまな分野に広範に広がっていますが、それは、これまで先人たちが高品質の監査を提供し、その社会的使命を立派に果たし、社会から高い信頼を得てきたからです。会計監査が今後とも引き続き社会から信頼を得ていくためには、急速に変化する経済社会の中で、経営者、監査委員会、規制当局、一般市民等を含む社会からどのように認識されているかに絶えず注意を払い、社会の期待に応えていくことが求められます。

(廣本「グローバルな監査品質の向上を目指して」

『会計・監査ジャーナル』2016年8月号、3頁)

---

公認会計士は、皆さんの未来の  
魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき将来に向かって  
しっかりと地固めをして  
悔いのない高校生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会 廣本敏郎